名補佐役、大いに語る！

編集局インタビュー③

―会議の無駄から創造的な時間を創る－

筏井　哲治　（いかだい　てつはる）

株式会社マイクロソフト北陸支店パートナービジネス営業部

北陸支店概要

2007 年 6 月 13 日付で「北陸支店」を開設，石川県，富山県，福井県の 3 県を担当する．地域における顧客との交流，パートナー企業との協業，自治体・教育機関・NPO などとの連携を通じた地域貢献活動，技術者育成による産業振興，産学連携などの企業市民活動を強化し，地域に根ざした企業活動を展開します．（HP より）

支店独自のブログも公開中

http://ms-hokuriku.spaces.live.com

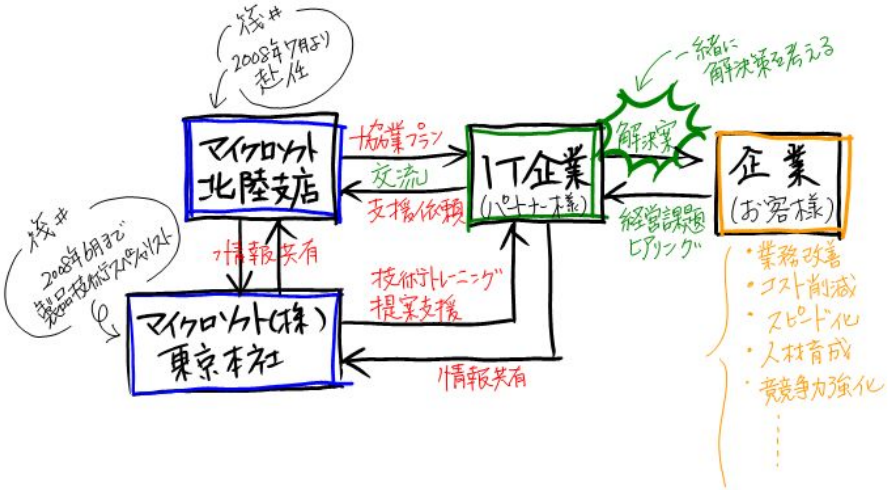
筏井さんのプロフィール

出身地：富山県高岡市出身，年齢：31 歳　家族：奥様，お子様（3 歳）

金沢パークビル 11 階のマイクロソフト北陸支店オフィスを訪ね，北陸のパートナー企業様を中心に精力的な営業活動を展開されている筏井哲治様から，約 1 時間のインタビューをさせて頂きました．（以下は要約です）

編集局　お仕事の内容は？

筏　井　今年(2008 年)の 7 月に東京から金沢へ赴任しました．業務はパートナー様担当営業をさせて頂いており，地場における弊社のパートナー様と共同で北陸地域での営業活動を行っています．営業と言ってもただ「販売する」という活動をしているわけではなく，弊社製品やテクノロジをうまく組み合わせてお客様が抱えていらっしゃる経営課題に対しパートナー様と一緒に考え，解決策をご提案させて頂いています．また導入や検証の支援などもさせて頂いています．



編集局　金沢にお住まいですか？

筏　井　高岡市にある実家から通っています．通勤は自転車と JR を乗り継いで約 1 時間程度です．家族 5 人（両親，妻子）と猫と一緒に暮らしています．

編集局　ご趣味は何ですか？

筏　井　実家が農家であるためお米や野菜が潤沢にあります．最近ではよく旬の野菜を使って料理を作っています．家族にも評判が良く，特によく出来たものは会社にも持ってきて同

僚に賞味してもらっていますが，みんな喜んでくれます．

編集局　北陸の印象は？
筏　井　一言で言うと「のどか」です．空気や水，食べ物がびっくりするほど美味しいです．ゆっくりと走る電車の窓から田園風景を眺め，今日はどんな新しいチャレンジをしようかと考える，これまでの超満員電車と比べると，これもまた毎日のちょっとした幸せです．時間が少しだけゆっくりと流れているような感じがして，心にゆとりができました．

編集局　今後のビジョンは？
筏　井　本来 IT 化する，とはワークスタイルが変わる，ということですが，IT が持つポテンシャルが最大限に引き出されているケースはまだまだ少ないのが現状です．北陸支店ならでは，と言えるようなユニークで独創性のあるアイデアを通じて IT が持つポテンシャルをもっともっと引き出したいと思います．

編集局　例えばどのようなアイデアですか？
筏　井　例えば，これまでお客様訪問をした際には，商談議事録を取り，帰社した後，同僚や上司に報告書として提出する．あるいは日々の業務日報として報告する，ということが当たり前のように行われていました．それが今や IT 化したことでメールや Word 文書，あるいは独自の業務システムで電子データによって報告をすることができるようになりました．

しかし今一度考えてみてください．せっかく IT 化したのにこれでは「ワークスタイル」は何も変わっていません，「報告業務」という面倒な作業そのものは何一つ削減されていないのですから．もし貴重な投資をして IT 化するのであれば「報告業務」そのものをなくすべきではないでしょうか．なぜならばソフトウェアが自動的に業務内容を私たちの代わりに報告してくれるからです．そしてそのソフトウェアとは皆さんご存じの Microsoft Office です．Office を Word/Excel と見るか，タスク管理やスケジュール管理，電話やメール，情報共有などのコミュニケーションまでを含めたビジネス戦略基盤と見るかで，その価値は天と地の差になります．

編集局　今後の展開は？
筏　井　弊社のパートナー様と一緒にイベントやセミナー，個別訪問を通じて今お話させて頂いたようなソフトウェアの持つ力を是非知って頂きたいと思っています．マイクロソフトは，北陸のお客様やパートナー様のビジネスがより愉快でやりがいのあるものになるようお手伝いをさせて頂きます．オフィスには宝と無駄が玉石混合で散らばっています．IT の力を使えば，うまく宝を拾い上げ，無駄をなくすことがびっくりするほど簡単に実現できます．IT を「無用の長物」にするか，「鬼に金棒」にするかは使い方次第です．ご興味があればぜひ当支店までマイクロソフトの IT 環境を見にお越し下さい．

最後に一言
筏　井　ソフトウェアの力で業務はどのように変わるか，現在私たち自身が実験台となり，その経過をブログに記録しています．私たちが直面した業務改革の壁は，きっと皆様にとってなんらかのお役にたてるものと信じています．

―編集局ブログー
うーん，なかなかのイケメンです．
初対面でしたが，明らかに理系の技術屋さんという印象で，システムの話を語ると熱気が伝わってきます．最初は何の取材かが上手く伝わってなかったようでした．編集局から趣旨を説明すると，この機会を利用しない手はないでしょうとばかり営業マンの顔になりました．
伝えたいことは山ほどあるようです．自社の製品への自信やプライドがこれから北陸の企業でどのように評価され，彼のビジョンがどう形づくられるか，今後の活躍が期待されます．